

Contents

- 1 企画展「どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄」(近代美術館)
- 2 企画展紹介「どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄」(近代美術館)
- 3 企画展紹介「若冲と京の美術 京都 細見コレクションの精華」(近代美術館)
- 4 企画展紹介 開館25周年記念展 I
「箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション展 花愛でるこころ、恋の詩とともに」(五浦美術館)
- 5 企画展紹介 開館25周年記念展 II
「並河靖之の雅な技 世界を魅了した明治の京都七宝」(五浦美術館)
- 6 事業レポート(五浦美術館)
- 7 企業パートナーシップ事業(近代美術館)
- 8 インフォメーション

近代美術館

どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄
—100かいだてのいえ と メディアアートの世界—



いわいとしお『もりの100かいだてのいえ』2021年



岩井俊雄《映像装置としてのピアノ》1995年

子どもたちに大人気の絵本、いわいとしお『100かいだてのいえ』(偕成社、2008年～)シリーズ。タテ長のページを上下に開くと現れる細長い画面が、タテ方向に積み重なる100かいだてのいえの描写に見事に対応しています。この絵本を見る人は、主人公と共に様々な動物たちが暮らす不思議な部屋を訪ね、建物を上るようにしてページの下から上へと読み進めるのです。

コントローラーを操ると音と光があふれ出す《映像装置としてのピアノ》(1995年)。楽器が弾けなくても楽譜が読めなくても音楽を奏でられるという、インタラク

ティブティ(双方向性)に優れた作品です。発表されたのは今から27年前。メディアアートの第一人者、岩井俊雄の代表作です。

一見すると無関係に思われる、この2つの作品。しかしながら、見る人を新たな体験へと誘う作品の在り方は通底するようです。常識を再検討することでメディアの特質を引き出す作者、いわいとしお×岩井俊雄の豊かな発想力が、これらの作品の源と言えそうです。

[近代美術館 首席学芸員 吉田衣里]

企画展紹介 どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄 —100かいだてのいえ と メディアアートの世界—

会 期：2022(令和4)年7月2日(土)～9月19日(月・祝)
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日(ただし、7月18日(月・祝)・9月19日(月・祝)は開館、7月19日(火)休館)
 入 場 料：一般1,000(870)円／満70歳以上500(430)円／
 高大生730(610)円／小中生370(240)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※夏休み期間を除く土曜日は高校生以下入場無料
 ※9月15日(木)～19日(月・祝)は満70歳以上の方は無料
 主 催：茨城県近代美術館
 後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／
 産経新聞水戸支局／東京新聞水戸支局／
 日本経済新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局
 協 力：偕成社／紀伊國屋書店

WEB予約をおすすめします

当館HPより「日時指定WEB整理券」(無料)を取得された方が優先入場となります。来館日の1カ月前より予約可能です。
 詳細は当館HPをご覧ください。

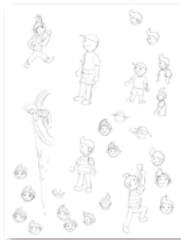
展覧会の概要

子どもたちに大人気の絵本作家・いわいとしおと、メディアアートの第一人者・岩井俊雄。一見、相反する異ジャンルのクリエイターは、実は同一人物だった！子ども時代の発明ノートやパラパラマンガ、絵本 原画やスケッチ、メディアアートの再現展示によって、アナログとデジタルにまたがる、その多種多様な表現世界の全貌と創作の秘密に迫ります。

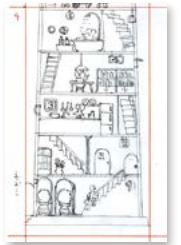
いわいとしおの絵本



『100かいだてのいえ』
2008年



アイデアスケッチ



下絵(主人公成立前)



完成作品(絵本)

子どもの頃の作品



《工作ブック》(発明のアイデアを描きためたノート) 1973年頃



みどころ

・『100かいだてのいえ』のヒミツに迫る

画期的な縦長の絵本『100かいだてのいえ』のアイデアは、どこからきたのでしょうか。本のかたち、ストーリー、イラストなどに注目して資料をひもとき、制作の裏側に迫ります。あわせて子どもたちには、分かりやすく、かつマニアックなクイズをご用意します。会場で絵本や資料を見ながら、答えを探してみてください。

・子ども時代に注目

小学校の頃に教科書やノートの隅に描いたパラパラマンガ、発明品を記した『工作ブック』、中学校時代に描いたマンガなど子ども時代の作品のほか、影響を受けた本やマンガ、熱中したモノの数々を展示します。

・メディアアートの再現展示

27年前に発表され、世界の人々を魅了した《映像装置としてのピアノ》(1995年)を、再現展示します。この貴重な機会をお見逃しなく！

展示作品の中には、さわると映像が動き出したり、音や光が出現したりする作品が含まれるほか、1階のアートフォーラムコーナーには、だれでも無料で参加できる『100かいだてのいえ』のワークショップコーナーが出現します。夏休みの1日を、ご家族そろって美術館でお過ごしください。

[近代美術館 首席学芸員 吉田衣里]

岩井俊雄のメディアアート



《時間層II》1985年 東京都写真美術館蔵 《STEP MOTION》1990年



《エレクトロプランクトン》2005年 《マシュマロスコープ》2002年



娘と手作りした 紙や木のおもちゃ



会 期：2022(令和4)年4月23日(土)～6月12日(日)
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：月曜日(5/16(月))展示替:作品入替6点、場面替6点
 入 場 料：一般1,210(1,100)円/満70歳以上600(550)円/
 高大生1,000(870)円/小中生490(370)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※土曜日は高校生以下は無料
 ※5月28日(土)は満70歳以上の方は入場無料
 主 催：茨城県近代美術館、細見美術館
 企画協力：(株)アートワン
 後 援：水戸市/朝日新聞水戸総局/茨城新聞社/
 NHK水戸放送局/産経新聞社水戸支局/
 東京新聞水戸支局/日本経済新聞社水戸支局/
 毎日新聞水戸支局/読売新聞水戸支局

WEB予約をおすすめします

当館HPより「日時指定WEB整理券」(無料)を取得された方が優先入場となります。来館日の1カ月前より予約可能です。
 詳細は当館HPをご覧ください。

展覧会の概要

京都・岡崎に位置する細見美術館は、1998年の開館以来、古美術を中心とした日本美術のコレクションによって国内外の人々に親しまれてきました。そのコレクションは、大阪の実業家であり茶人としても知られた細見良(初代古香庵)氏にはじまり、二代目の實氏、現館長の良行氏の細見家三代により蒐集されたものです。

細見コレクションの特徴は、各作品の質の高さはもちろん、古代から現代に至る日本の各時代、絵画・彫刻・書蹟・諸工芸の各分野を網羅し多彩であることです。とりわけ、今日高い人気を誇る琳派や、江戸時代の京の絵師・伊藤若冲(1716-1800)の作品群は、細見家が早くから着目して蒐集を続け、公開してきた非常に貴重なものです。

本展では、細見コレクションの中から、若冲の作品16点に加え、若冲を生み、その異才を育んだ「京」の歴史・文化を伝える美術品約90点を4章により紹介しています。名所図や物語絵、茶の湯の美術、祭礼図、歌仙絵、

琳派の絵画など、重要文化財や重要美術品を含む選りすぐりの作品をじっくりとご堪能ください。

みどころ

伊藤若冲の貴重な初期作品《糸瓜群虫図》をはじめ、その画業を一望できる優品(展示替をした後期は15点)を公開しています。若冲の代名詞とも言えるニワトリはもちろん、可愛らしくユーモラスな子犬、伏見人形、野菜、虫、縁起物、等々。その画題の多彩さとユニークな絵画表現、細緻極まる筆遣いは圧巻です。

また、華やかな京の姿を映す祭礼図や遊楽図、古典文学を題材とした物語絵や歌仙絵、茶の湯の美術など、細見家三代の審美眼によって選抜された美術品はみどころたっぷりです。とくに、日吉山王社の靈験説話を描いた《山王靈験記絵巻》、卓越した鑄造技術で鹿の図様が表された《芦屋霰地楓鹿図真形釜》の2点は室町時代の重要文化財であり、後者は初代古香庵が釜の蒐集と研究に没頭するきっかけともなった逸品です。

さらに、琳派の祖とされる俵屋宗達が江戸時代初期に手がけた下絵(料紙)と本阿弥光悦の書のコラボレーションによる、優美な和歌巻《忍草下絵和歌巻 断簡》や、明治以降に活躍し尾形光琳の再来とも呼ばれた神坂雪佳の装飾性に富む絵画など、琳派の作品も必見です。池大雅や青木木米らの文人画も出品。奇才若冲を生み育んだ「京」における、個性豊かな芸術家たちの競演をお楽しみください。

[近代美術館 主任学芸員 永松左知]

展覧会関連イベントを開催しました

- 4/23 記念講演会「細見コレクションと若冲」
講師:細見良行氏(細見美術館 館長)
- 5/15 鑑賞講座「細見コレクションでめぐる京都」
講師:伊藤京子氏(細見美術館 主任学芸員)



《山王靈験記絵巻(部分)》
室町時代 重要文化財



《芦屋霰地楓鹿図真形釜》
室町時代 重要文化財



神坂雪佳《四季草花図》
大正後期

伊藤若冲《糸瓜群虫図》
江戸中期 【後期展示】

箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション展

花愛でるところ、恋の詩とともに

会 期：2022(令和4)年4月27日(水)～6月26日(日)
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日(ただし5月2日は開館)
 入 場 料：一般730円(630)円／満70歳以上 360(310)円／
 高大生520(420)円／小中生320(210)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※土曜日は高校生以下無料
 ※4月30日(土)は満70歳以上無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館
 協 力：箱根・芦ノ湖 成川美術館
 後 援：朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／株式会社茨城放送／
 NHK水戸放送局／産経新聞社水戸支局／
 東京新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局／北茨城市／北茨城市教育委員会

展覧会の概要

岡倉天心(覚三)は『The Book of Tea (茶の本)』の中で「人類において、花を觀賞することは、恋愛の詩と時を同じくして始まったに違いない。(原文＝Surely with mankind the appreciation of flowers must have been coeval with the poetry of love.)」と述べ、人間が花に寄せる想いは、愛情を詩歌に託すのと同様、人類と動物とを分かち、人間にとって根源的なものであるという考えを示しています。

花は古くから私たちの生活を彩り、祭事など様々な場面で重要な役割を果たしてきました。また花そのものを飾ることと同様に、花を描くこと、文様などに象ることも古くから繰り返され、花は芸術の中でポピュラーなモチーフとして用いられてきました。そして明治に始まる「日本画」の歴史のなかでは、画家たちは古画の模倣から離れて写生を強く意識し、また植物学、博物

学などの知識を背景に、新たな視点で花や植物を捉え直して描いてきました。

本展覧会は成川美術館の4000点を超える現代日本画コレクションから、花を描いた様々な作品を精選してご紹介します。著名な日本画家たちによる、花々の競演をお楽しみください。

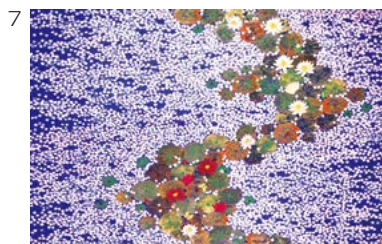
みどころ

実業家の成川實氏が収集した現代日本画コレクションを基にして、成川美術館は1988年、芦ノ湖と箱根神社を見おろす高台に開館しました。4000点を超える同館のコレクションには、現代の日本画家たちの代表作が多く含まれます。

本展覧会では、戦後の日本画を牽引し続けた山本丘人をはじめ、花の画家として人気を博した堀文子、花咲き乱れる幻想世界を描いた近藤弘明、洗練された花鳥画で知られる牧進、さらには現代の院展を牽引する田淵俊夫、本県ゆかりの那波多目功一、倉島重友など、画家たちによる花の作品の数々をご紹介します。美術ファンの皆様には、画家それぞれ花の描写などを存分に味わっていただける内容となっています。

また、大作を中心に17作家45作品が並ぶ展示室は、文字通り花に包まれる空間となります。幅広い層の皆様に、画家の目を通してそれぞれの角度から、花々を愛で、愉しんでいただける展覧会です。様々な花の表情にこころ躍らせ、癒やされるひとときをお過ごしください。

[天心記念五浦美術館 首席学芸員 井野功一]



- 1 森田りえ子《首夏》1996年
 - 2 湯口絵美子《フルボン・ローズ》2015年
 - 3 鈴木恵麻《アリとヒマワリ》2009年
 - 4 倉島重友《白い薔》1988年
 - 5 那波多目功一《皐月の頃》2005年
 - 6 田淵俊夫《流転(朝顔)》1983年
 - 7 平松礼二《睡蓮の池 桜》2012年
- 全て箱根・芦ノ湖 成川美術館所蔵

並河靖之の雅な技 世界を魅了した明治の京都七宝

会 期：2022(令和4)年7月9日(土)～9月25日(日)
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日
 (ただし、7月18日、9月19日は開館。7月19日(火)は休館)
 入 場 料：一般840円(730)円／満70歳以上420(360)円／
 高大生630(520)円／小中生320(210)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※夏休み期間を除く土曜日は高校生以下無料
 ※9月15日(木)～21日(水)は満70歳以上無料
 主 催：茨城県天心記念五浦美術館
 協 力：公益財団法人並河靖之有線七宝記念財団
 後 援：朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／株式会社茨城放送／
 NHK水戸放送局／産経新聞社水戸支局／
 東京新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局／北茨城市／北茨城市教育委員会

展覧会の概要

明治時代、輸出用の工芸として人気を博した七宝。並河靖之(1845-1927)は、京都で七宝作家として活躍しました。並河は武士出身でしたが、明治維新後は七宝業に取り組み、海外で人気を博しました。明治29年(1896)には皇室技芸員となり、当代一流の工芸家としての地位を確立することになりました。

近年、明治時代の美術・工芸が再注目されています。近代日本美術の発展に尽くした岡倉天心(1863-1913)の業績を顕彰する五浦美術館では、天心と同時代に活躍した並河靖之の初期から晩年までの七宝作品を一堂に紹介する展覧会を開催します。本展では、下絵等の関連資料、修学院離宮に伝わる江戸時代初期の飾り金具、さらに並河と同時期に活躍し、「東のナミカワ」と呼

なみかわ ぞうすけ
 ばれた濤川惣助の七宝作品なども展示することで、並河七宝の魅力を明らかにします。

みどころ

明治維新直後の京都の産業界は、東京遷都によって衰退し、政府が掲げる輸出奨励策に沿った貿易品の製造に切り替えることで打開を図っていました。そうしたなか、並河は京都で伝統が途絶えていた七宝に着目します。明治6年(1873)の開業に当たり、参考にしたのは、中国の有線七宝でした。その後、内外の博覧会への出品を積極的に行うなかで、透明な七宝釉薬の開発と植線と呼ばれる金属の細線の改良を重ね、艶やかな黒地と緻密な意匠による作品を制作して評価を得ていきます。明治20年代初めには「世界で一番の七宝作家」と賞賛されるまでになりました。

高まる人気の中で、並河は工房兼自邸を改修し、美しい庭園と店と工房による「もてなしの空間」をつくりました。並河邸は、京都の観光スポットとなり、皇太子時代の英国王エドワード8世をはじめ、富裕な外国人観光客が数多く訪問して作品を注文しました。明治29年(1896)に並河邸を訪れたアメリカ人のエドワード・ホームズは、後にボストン美術館中国日本美術部後援会会長となり、同館の中国日本美術部長であった岡倉天心の活動を支えた人物として知られています。《花鳥図花瓶》はホームズの注文品と考えられる貴重な作例です。

今回、展覧会の準備を進める中で、京都出身の文人画家である富岡鉄斎との交友関係も明らかになりました。《協天大帝像》は、並河の緑綬褒章受章祝いとして制作されたもので、並河が中国に由来する有線七宝で名を成したことから、商業神として崇信されている関羽を題材にして、緑綬褒章を描き加えています。この他にも初公開となる並河旧蔵の鉄斎作品を特別に紹介します。

明治時代、京都で花開いた雅な七宝の技を、この機会にどうぞお楽しみください。

[元 天心記念五浦美術館 主任学芸員 松尾敦子]



並河靖之《花鳥図花瓶》
 明治29年頃(c.1896)
 清水三年坂美術館蔵



富岡鉄斎《協天大帝像》
 明治26年(1893)
 個人蔵



並河靖之《菊御紋章藤文大花瓶》
 明治-大正期
 並河靖之七宝記念館蔵
 撮影・山崎兼慈



《七宝花車形釘隠》
 延宝5年(1677)
 宮内庁京都事務所蔵



並河靖之《桜蝶図平皿》
 明治期
 京都国立近代美術館蔵

茨城県天心記念五浦美術館

よみがえる、旧岡倉天心邸書斎障壁画

明治36年(1903)、五浦海岸に土地を買い求めた岡倉天心は、2年後の38年に私邸を築いた。茨城大学が所蔵する横山大観「欄間絵」(以下、「現存欄間絵」)は、もともと旧天心邸に残されていた板絵で、かつて天心邸書斎を飾った障壁画の一部として伝えられる。書斎は現存せず、遅くとも昭和17年(1942)までに撤去されたと考えられているが、ここに大観筆の障壁画が存在したとする証言が複数残されている。平成15年(2003)、障壁画の小下図(個人蔵)に関する情報が当館に寄せられ、当時の学芸員が調査を行った。その結果、小下図の図柄は「現存欄間絵」と一致し、証言とも共通点が多いことから、旧天心邸書斎に関連する資料との結論に至った。

そして令和2年度、当館の長年の夢であった障壁画の復元プロジェクトが具体化し、当館・岡倉天心記念室に再現された原寸大の書斎に障壁画を復元すべく、翌年度中の完成を目指して事業を開始した。復元にあたっては、東京藝術大学教授の荒井経氏に制作を依頼し、まずは荒井氏監修のもと、「現存欄間絵」及び小下図を対象に蛍光X線による画材の分析を行ったⁱ。特に「現存欄間絵」は箔の酸化が著しかったが、調査の結果、銀地を背景に金を用いて杉木立を描いたものであることが分かった。また小下図の襖部分を横断する二条の帯からも金、銀が検出された。

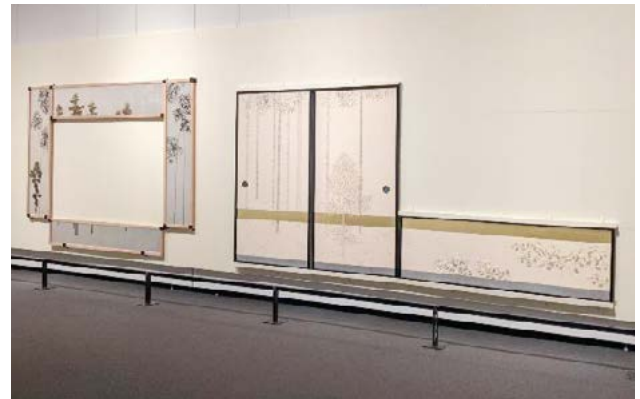
さて、大観の制作意図に迫るために、当時の天心邸を知る人物の証言を紐解いてみたい。残された複数の証言のうち、最も具体的な図柄を伝えてくれるのは、画商・中川九郎のものであるⁱⁱ。証言によれば、天心邸の庭には「貧弱な姿」の一本杉があり、天心はこれを画におさめるよう大観に依頼し、苦慮した大観は「一群の杉林を描いて、其れを金箔の帯で隔てて、手前に例の一本杉を点出した」という。どうやら障壁画のポイ

ントは、絵画空間に五浦の実景を取り込んだところにあったようだ。実際、天心が気に入っていた一本杉は、証言どおり金箔のラインとともに襖に描かれている。

約2年をかけて、荒井氏と共同で調査を行いながら復元を進めた障壁画は、遂に令和3年(2021)の末、復元が完了し、特別展示「完成披露 旧岡倉天心邸書斎復元障壁画」(令和4年2月11日-4月17日)で初公開した。特別展示終了後は岡倉天心記念室での常設展示を行っている。天心の思い描いたもの、そして若き大観の挑戦に注目されながら、ぜひご覧いただきたい。

[天心記念五浦美術館 学芸員 塩田 稔雄]

- i 画材の同定は、東京藝術大学の大和あすか氏に御協力を賜った。
- ii 『美之國』第2巻第10号、1926年



荒井経「旧岡倉天心邸書斎復元障壁画」令和3年、当館蔵(特別展示の様子)



現存欄間絵を対象とした画材分析の様子(令和2年撮影)



横山大観「旧岡倉天心邸書斎障壁画小下図」、個人蔵

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

パートナー企業様とともに創りあげる芸術文化振興の新しいシステム！

人口減少や少子高齢化の進行は社会の仕組みや経済にも大きな影響を及ぼし、地方自治体によっては厳しい財政状況の中で、地域の資源や特性を活かしながら地域の活性化や多様化する諸課題の解決に当たることがこれまでも増して重要になっています。

このような中、CSR（企業の社会的責任）やSDGs（持続可能な開発目標）に意欲的に取り組まれている企業や団体の皆様と当館がパートナーシップを結び、本県の芸術文化の振興を一緒になって推進していこうという新たなシステムが令和2年度にスタートし、3年目を迎えました。

本システムでは、3つのパートナープランをご用意し、ご支援いただく金額に応じて様々な特典を提供いたします。このコロナ禍で予定していた特典が実施できなかったケースもありましたが、それでもパートナー企業の皆様には今年度も契約を継続していただき、また新たにシルバーパートナーに沼尻産業株式会社様をお迎えして、推進体制はさらに充実したものとなりました。

◇3つのパートナープラン◇

プラチナパートナー：300万円

ゴールドパートナー：100万円

シルバーパートナー：50万円

特典の詳細は当館HPでご確認ください。<http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/information/partnership/>

◇令和4年度の主な事業◇

〈展覧会への支援〉

「速水御舟展」の開催費用の一部を負担するほか、今年度開催する全企画展のPRに、パートナー企業様からの支援金や役務を活用させていただき、積極的に広報活動を展開してまいります。

〈教育普及アートバス事業〉

展覧会鑑賞をはじめ、ハロー！ミュージアムや対話型アートツアー、ワークショップなど美術館が用意する様々な体験活動を目的に来館される場合、バス借り上げ料及び高速道路利用料を助成します。今年度は23市町村の小学校26校が参加します。

ハロー！ミュージアム



大型スクリーンに映し出される映像と音楽、スタッフとの楽しい会話でアートな世界に案内します。

対話型アートツアー



鑑賞補助教材ARTトランクをつかっての対話型鑑賞をおとして作品の見方や楽しみ方を学びます。

ワークショップ



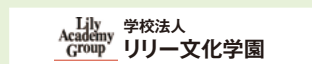
「オリジナル缶バッジ」など展覧会の内容に合わせた楽しいものづくりが体験できます。

展覧会鑑賞



ハロー！ミュージアムや対話型アートツアーでの体験を活かして美術作品をじっくりと鑑賞します。

企業パートナーの皆様



INFORMATION

MOMA
IBARAKI

6月～9月のご案内

茨城県近代美術館

〈企画展〉

〈どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄
—100かいたでのいえとメディアアートの世界—〉
7月2日[土]～9月19日[月・祝]

〈所蔵作品展 第1展示室〉

〈日本の近代美術と茨城の作家たち 春から夏へ〉
6月19日[日]まで

〈日本の近代美術と茨城の作家たち 夏〉

前期6月24日[金]～8月7日[日]
後期8月9日[火]～9月19日[月・祝]
※8月8日[月]に一部展示替え

〈所蔵作品展 第2展示室〉

〈生誕130年 木内 克〉
6月19日[日]まで

〈視覚のふしぎ〉

6月24日[金]～9月19日[月・祝]

〈アートフォーラム展示〉

〈いわいとしお関連展示〉
6月28日[火]～9月19日[月・祝]

〈その他のイベント〉

- ・家族でわくわくミュージアム
期日：6月17日(金)10時～ 乳児+大人(保護者)
6月18日(土)13時30分～ 幼児+大人(保護者)
6月25日(土)13時30分～ 幼児+大人(保護者)
7月16日(土)13時30分～ 小学生+大人(保護者)
会場：1階所蔵作品展展示室
定員：各回5組20人程度
※要事前申込/参加費：要所蔵作品展チケット(土曜日は高校生以下無料)
- ・子どものためのワークショップ 2022夏
期日：8月26日[金]～8月27日[土]
会場：地階講座室、会議室 ※参加費50円(行事保険加入料)
- ・令和4年度第1回ミュージアムコンサート
「トロピカルコンサート スティールパン&パーカッション&
ピアノでとどけるカリブ海の風」
[出演] ランパンバ(山田園恵(スティールパン)、
大江雅子(パーカッション)、堀家徳子(電子ピアノ))
期日：7月9日[土]
午前の部 11時～/午後の部 14時～(各回30分程度)
会場：地階講座室
定員：各回100名程度 ※要事前申込
- ・令和4年度第1回美術館セミナー
期日：8月4日[木]10時～
会場：地階講座室
定員：100名 ※要事前申込/参加費：無料
※各イベントの詳細や申し込み方法は当館ホームページをご覧ください。

茨城県つくば美術館

〈土曜講座〉

時間：各日午後1時30分～
会場：2階アルスホール
料金：無料

6月11日[土]
・第2回「木内克について」
[講師] 乾 健一(茨城県近代美術館学芸員)

7月16日[土]
・第3回「井上雅之、その造形と歩み」
[講師] 芦刈歩(茨城県陶芸美術館学芸員)

8月6日[土]
・第4回「どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄
—100かいたでのいえとメディアアートの世界—」
[講師] 吉田衣里(茨城県近代美術館首席学芸員)

9月10日[土]
・第5回「大日堂障壁画について」
[講師] 中田智則
(茨城県天心記念五浦美術館企画普及課長)

〈貸ギャラリー展〉

- 6月7日[火]～6月12日[日]
・アートウェーブつくば第27回展【総合】
- 6月14日[火]～6月19日[日]
・全日本写真連盟第26回常総支部写真展【写真】
・FREEDOM PHOTO EXHIBITION STAGE10【写真】
- 6月21日[火]～6月26日[日]
・武蔵野美術大学校友会第19回茨城支部展【総合】
- 6月28日[火]～7月10日[日]
・令和4年度茨城県移動展覧会「茨城の美術セレクション」【絵画・彫刻】
- 7月12日[火]～7月18日[月・祝]
・日中韓芸術展【絵画】
- 7月20日[水]～7月24日[日]
・第2回西尾努水彩画展【絵画】
- 7月26日[火]～7月31日[日]
・モモイランフラワーと仲間たち【工芸】
・第32回茨城自然写真の会展覧会【写真】
- 8月2日[火]～8月7日[日]
・第64回茨城二紀展【絵画】
- 8月16日[火]～8月21日[日]
・第9回アール・ハレ展【総合】
- 8月23日[火]～8月28日[日]
・夏休みアート・デイキャンプ展【絵画】
- 8月30日[火]～9月4日[日]
・第6回茨城県独立書展【書】
- 9月13日[火]～9月19日[月・祝]
・ビジュアルコミュニケーション展【総合】
- 9月27日[火]～10月2日[日]
・西陣美術織 若冲 動植綵絵展【織物絵画】

茨城県天心記念五浦美術館

〈企画展・関連イベント〉

〈開館25周年記念展 I
箱根・芦ノ湖 成川美術館コレクション展
～花愛でるころ、恋の詩とともに～〉
4月27日[水]～6月26日[日]

・展覧会担当者による作品解説
期日：6月4日[土]
時間：13時30分～(約30分)
会場：講堂
定員：57名 ※当日整理券

〈開館25周年記念展 II
並河靖之の雅な技 世界を魅了した明治の京都七宝〉
7月9日[土]～9月25日[日]

・展覧会担当者による作品解説
期日：7月30日[土]、9月4日[日]
時間：13時30分～(約30分)
会場：講堂
定員：各日57名 ※当日整理券

・有線七宝制作体験講座
講師：森 千鶴子(七宝作家)
期日：7月23日[土]、24日[日]
時間：9時30分～16時30分
会場：講座室
定員：各日6名 ※要事前申込(抽選制) ※要企画展チケット、材料費

・七宝づくりに挑戦!
期日：8月6日[土]、7日[日]
時間：10時～11時30分
場所：講座室
定員：各日10名 ※要事前申込(抽選制) ※要企画展チケット、材料費

〈その他のイベント〉

- ・七夕イベント 金銀砂子でアート缶バッジ
期日：7月2日[土]、3日[日]
時間：10時～11時
会場：講座室
定員：各日20名 ※当日整理券、要岡倉天心記念室チケット
- ・来て・見て・発見! アートツアー for kids
期日：7月16日[土]
時間：10時～12時
会場：展示室、講座室
定員：小中学生と保護者5組(1組4名まで)
※事前申込(先着順)、保護者のみ要企画展チケット

〈映画会〉

会場：講堂/定員：各日57名(要事前予約、先着順)/無料
時間：各日10時～

- ・6月12日[日] 「こねこ」84分
- ・7月10日[日] 「奥さまは魔女」77分
- ・8月14日[日] 「名犬ラッシー(家路)」89分
- ・9月11日[日] 「ジェームズ・ディーンの手紙 青春よ永遠に」80分

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合がございます。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <http://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町橋2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <http://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館(近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館)共通の年間パスポートを発売中! 詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

- 土曜日来館の高校生以下の方(ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます)
- 教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務中等教育 特別支援学校(県外含む)の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者
- 国際交流事業として国外から本県に留学している方
- 児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入室している方及び付き添いの方(1人につき付き添い1人まで)
- 身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで)
- 指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで)
- 生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

〈お知らせ〉

- ①新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況ではありますが、友の会としての行事が過去2年間実施できなかったことを鑑み、可能な限り感染予防対策を取りながら、行事を再開することといたしました。
まず、6月10日(金)に春の美術鑑賞旅行、7月には絵画講習会を開催する計画で準備を進めておりますので、会員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。
- ②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金をお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。天心記念五浦美術館でお申し込みの場合は、入会申込書の提出と入会金のご入金を確認後、2週間以内に会員証をお届けいたします。

詳しいお問い合わせ

- ・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局(☎029-243-5111)または県天心記念五浦美術館(☎0293-46-5311)にお問い合わせください。
- ・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。



<https://www.fmoma.com>